

授業科目	臨床実習 I				
担当者	榎 千磨(実務経験者)・田中 稔(実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	実務経験者2名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

1. 国内医療・介護等施設における1回の施設見学を行う。
2. 協力医療施設で、スタッフ・教員指導の下、1週間の臨床実習を行う。

## ■ 到達目標

1. 医療・介護等様々な分野の理学療法を理解する。
2. スタッフ・教員と連携を図りながら、対象者の障害について、実際の生活像と共にそれを阻害している機能的な問題の実像を、医療面接、PT 見学、観察、触知、検査・測定などを通じて理解する。

## ■ 授業計画

### 1. 施設見学

- ・実習施設：学生自身が見学を依頼した医療・介護等施設
- ・実習期間：1回
- ・実習形態：学生自身が施設に見学を依頼し、所定の日に当該施設の理学療法場面を見学しに行く。
- ・実習の進め方：見学中は、礼儀に十分注意を払いながら、積極的に理学療法場面の見学を行う。

### 2. 臨床実習

学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接、基本的臨床技能について取り上げる。

- ・実習施設：協力医療施設
- ・実習期間：1週間
- ・実習形態：協力医療施設において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者様の障害像に迫る。専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら必要なフォローを実施する。
- ・実習の進め方：理学療法評価学Ⅰ、Ⅱで学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査などの基本的な測定、評価をなるべく多く体験する。また、解剖学、生理学、運動学、臨床医学等の知識を基に、一人の対象者様に対して適切な機能障害の検査測定項目を選択し、的確に実施する。実習の進め方は、臨床現場実習と専任教員のフォローを織り交ぜて実施する。尚、事前に病院スタッフとのミーティングを行い、学生・対象者・スタッフ相互にとって利益が発生するよう、人員配置や実習の進め方について打ち合わせを行っておく。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

協力医療施設スタッフに於いても、当連携に参加することにより、その資質向上が得られることが期待されている。学生指導を通して対象者の障害像把握が明確化され、更には教員との情報交換も経て、より良いリハビリテーション提供に繋がるものと考えられる。これらの事項は結果的に対象者の利益にも繋がり、学生・スタッフ・対象者三者の利益を得るという点に、本科目は主眼を置いている。

## ■ 評価方法

配点【施設見学】5%、【臨床実習】95%

1. 【施設見学】レポートで判定する。見学を実施しない場合は、臨床実習を履修できないものとする。
2. 【臨床実習】実習内容および態度・臨床実習実施記録の内容等を基に、臨床実習指導者の意見も勘案しながら、専任教員が総合的に判定する。欠席、遅刻、早退は減点対象とする。(欠席-6、遅刻・早退-2、受講中の注意指導-2)

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1. 施設見学に際しては、事前に当該施設自体の情報及び当該領域の理学療法について下調べをして臨む。見学終了後は、得られた知見をレポートにまとめ、以後の学習に活かせるようにしておく。
2. 実習前には、解剖学・運動学・生理学・評価学等の知識を再度整理し、評価に関する実技を十分練習しておくこと。実習終了後は、自己の課題を整理し次の実習に繋げる事ができるようにしておくこと。

## ■ 教科書

書名：PT 臨床実習ルートマップ

著者名：柳澤健

出版社：メジカルビュー社

書名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田慎一郎 他

出版社：医学書院

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

臨床実習Ⅰは、実際の臨床現場での実習となる。臨床実習実施要綱には、臨床実習の目的や注意点が記載されているので、実習直前に再度読み直し、理解しておくこと。

## ■ 講義受講にあたって

次の臨床実習Ⅱに繋がるように、しっかり経験を積んでください。